

たまいたま

川柳



尾瀬 ダケカンバ

令和4年（2022年）
7月号（No.752）

日川協加盟

巻頭言

元気な老いとうじん

否応なく日々実感している老いについては、あまり口にしたくない。葉事漬けの百才よりは、元気な九十才で旅に出たいものだ。考えなければならぬのは、元気な老いのための養生のあり方だ。

齊藤茂太氏が「新・養生訓」で「政治家はなぜいつまでも元気なのか」と語っていた。三十五年も前の著書で、だが。

基本的には丈夫であり、よく歩きよくしゃべること。演説などで大きな声を出す。握手して回る。何が起きてもよくよくよせず、凶々しいこと。創造的思考を働かせ主体的に生きること……などらしい。政治家だけでなく、役者や俳優や企業経営者にも元気な人が多い。彼らの健康管理は即ち日々の養生であり、加えてつねに頭脳と体を働かせて生きているから、ということになる。

永らく巣籠もりに徹し、日々三食お任せの修行的な生き方では、政治家的な養生など得られないのは当然である。養生は前向きな心身相俟つての作用なのだから。今は、コロナ禍の推移も勘案しながら、年齢相応の生き方を考えかつ実行しなければ・・・と思う。

老躯ながら、川柳という趣味世界で脳活の機会をもっている。あとは体力増進である。季節とマスクと体調のコラボを考えつつ、知恵と根気との勝負へ新たな挑戦である。

願法 みつる

終刊に向けて「思い出の記」(再喝)

六月号から、「思い出の記」の掲載が始まりました。皆様からの更なる寄せ書きをお待ちしております。

同人・誌友、皆様の誌面です。他人任せではなく、お一人お一人の思い出を自由に述べて下さい。

タイトルも内容もご随意です。

記事は、二十五字×四十行＝一千字が基準ですが、量の多寡は全く自由です。誌面は如何様にも対応致します。

玉稿は編集部に到着以降、最終の十二月号にかけて、逐次紹介させて頂きます。

しかし、残り期間に余裕はありません。早めのご執筆をお考え下さい。

送付先は、事務局宛か代表宛で願います。代表へのメール宛先は左記の通りです。

ganpoh-mt@nifty.com

編集部